

## 利活用のための整備や整理

- 水深が浅くなっているため、舟を利用するには整備が必要。
- 乗船場として浮棧橋の設置や川への傾斜での接続。
- 市役所前の棧橋の船を整理することで、かわまちで利用できるのではないかな。
- 境川には生物がたくさんいる。見せる場所が必要。乗船場が利用できる。
- 協議会で特区申請できると利活用しやすくなる。

## 川とまちを繋げる

- かわに目を向ける動機づけが必要。（舟を浮かべる、乗船、クリーンアップ、川辺でお茶など）
- イベントがなくても気持ちいいという状態が理想。それにイベントやアクティビティが加わると盛り上がる。
- 見どころや映えスポットのPR。ポイントを繋ぎ合わせて面へと広げていく。
- 境川は街から近いのがメリットだが、それが当たり前すぎるのか。
- 整備された新町・中町、味わい深い元町、全てを合わせて歩いて楽しいまちづくり。

## 賑わい創出

- 乗船、史跡巡り、食（食べ歩き）のコラボ。
- 元町で御朱印ツアー。
- 現時点で商売をやってくれそうな人の情報はない。
- コロナ禍でイベントが少なく、キッチンカーは厳しい状況である。
- 現状では、河川両脇に賑わい創出する公共空間が少ないので、隣接する公園等を利用する。
- 市役所前の親水テラスはいろいろできる場所で活用している。屋根を付けると屋根もスペースとして利用できる。
- 近くに民家がある場所は、イベントをする場合は、住民の理解が必要。かわまちでそのようなことができないか。

## 水質や生物

- リュウノヒゲモについては脚光を浴びていない。何かしらの説明が必要。ゴミが付いて見栄えがよくない。
- 防災訓練として自治会対抗のEボート競走などで水に触れるとキレイにしよう意識する。
- Bゾーン的生活排水の流入がなくなると逆流の問題がなくなるので、今よりも柔軟な水門操作が可能となる。

## その他

- 具体の場所について地図を広げてコンセプトなどの協議ができれば、ポイントが絞れる。
- 境川は、生物や防災など、いろいろな役割がある。